



Gイナーレ鳥取

地域のガキ大将づくり『復活！公園遊び』 1/2



Story

18年続『復活！公園遊び』

Gイナーレ鳥取に加入した鳥取県出身の坂本選手。

「ぼく小学生の頃、鶴見さん(当時選手でいまはフロントスタッフとして勤務)に『復活！公園遊び』に来てもらいましたよ。」と話す。加入後は自らがまちにでて『復活！公園遊び』をしています。そして、こどもを連れてきた保護者が「わたしが子どもの頃、塚野社長に遊んでもらったんですよ」と声をかけてくれる。この活動を始めて18年が経ち地域でこんな会話を聞く機会が増えてきました。

『復活！公園遊び』とは

『復活！公園遊び』とは「鬼ごっこ・ろくむし・だるまさんが転んだ・中当て・めんこ」など昔懐かしい遊びから体を使った遊びまで様々な遊びを通じて、子どもたちの心身の健全な育成に目的にした活動です。「いつ来てもいつ帰っても良い」「誰が来ても仲間に入れる」「準備いらず片づけいらず」がモットーの活動でGイナーレ鳥取では選手・フロントスタッフが地域のプレーリーダー(ガキ大将)となって活動しています。また年代や性別の垣根のない公園遊びでは、年上の子が年下の子でも楽しめるような雰囲気を作ったり、積極的に話しかける姿を多く見ることができ、楽しさの中で「他人との関わり方」「相手の気持ちを考えること」など遊びの中で子どもたちが気づける場所にもなっています。

活動のはじまり

はじまりは2003年。外で遊べば近所から苦情が出たり、公園ではボール遊びが禁止になるなど、子どもたちが体を使って遊ぶ環境が減少していました。子どもたちが役所に公共の場の利用に関して懇願状を提出したのは記憶に新しいと思います。「コンピューターゲーム機」が急速な勢いで広がり、1人で遊ぶ時代に子どもたちの遊び方や遊ぶ環境は大きく変わっています。人口最少県の鳥取も例外ではなく当時NPO法人やまつきスポーツクラブの専務理事だった塚野真樹(現SC鳥取代表取締役社長)が子どもたちの環境変化に直面し『このままではいけない』という想いから始まりました。『スポーツや遊びの本質は「遊びであり楽しさ」。故に人はそれを決して手放さない。価値や意義を超え、本質の享受と本質の伝承を実現する』これは、現在のクラブの礎となっている考えです。それらを脈々と受け継ぎGイナーレ鳥取は『スポーツを通したまちづくり、人づくり』をクラブの理念に掲げています。『外遊びが

少なくなり、遊びを通して人間関係を築くのが苦手になりつつある子どもたちに遊び方やその楽しさを伝えたい』という想いをプログラム化し、年間100回を目標に活動を展開し、延べ60,000人以上が参加しています。

まちに公園遊びが復活した瞬間

スタート時は、参加者は多くはありませんでしたが、回を重ねるごとに参加する子どもたちが自然と増えていきました。やまつきスポーツクラブの副理事長の大原さんは「当時は、本気で大人が子どもたちを负かしにいていた！」「鬼ごっこ」や「めんこ」で子どもたちを泣かせたことが何回もあった。でも、子どもは悔しくてまた挑んでくる。大人も子どもも本気だったよ。その本気の熱量が大切なんだよ」と熱く話してくれました。その時間の楽しさが子どもたちの間で広がりイベントの日でもないのに、会場となった地域の公民館には自然に集まって遊ぶ子どもたちが増えるようになり「今日はやまつみの人は来んらしいで」と公民館の職員が声をかけると、子どもたちから「そんなことは知ってるよ。自分たちでやりたいけん、集まろうだがん」とあっけらかんとした返事が返って来たそうです。それはまさに大人たちが望んでいた、子どもたちだけで遊ぶ姿が「復活！」した瞬間でした。

『復活！公園遊び』のこれから

今ではお陰様で募集を開始すると1週間で全日程が埋まってしまう、小学校の各学年の学年部、地域子ども会などからの公園遊びの開催依頼はお断りする場合もあるなど大盛況となっています。会場では「本当に楽しい」「またきて欲しい」と子どもたちからは喜びの声と笑顔があります。保護者や学校の先生からは「あんなに楽しそうな顔を見たのは初めてです」「いつもと違う子どもたちの様子を見ることができました」などの嬉しい言葉が聞こえてきます。同時にこうした活動を通じGイナーレ鳥取を応援して下さる方が増えていきました。「たかが遊び、されど遊び」。体を使った遊びの持つ力を再認識し、地域の協働者を増やしつつ県内の子どもたちとより多く関わられるような仕組みづくりと、遊びの持つ大きな魅力・可能性・現場の熱量を全国の子どもたちへ発信を続けていきたいと考えています。これから『復活！公園遊び』検定を作ってクラブ公認プレーリーダー(ガキ大将)を増やす、スタジアムに『復活！公園遊び』コーナーを常設するなど、街のいたるところで大人も子どもも垣根なく遊んでいるような日常が当たり前な鳥取の未来を思い描いています。



ガイナレ鳥取

地域のガキ大将づくり『復活！公園遊び』 2/2



活動詳細情報は



クラブ公式HP <https://ux.nu/xYThU>

・復活！公園遊びルールブック <https://ux.nu/sSZmv>

・年代別クラブホームタウン活動マップURL

<2020> <https://ux.nu/kun5d>

<2019> <https://ux.nu/tlZRz>

<2018> <https://ux.nu/stt1T>

<2017> <https://ux.nu/2XIYv>

<2016> <https://ux.nu/f4Ts0>

<2015> <https://ux.nu/mNvvi>

<2014> <https://ux.nu/OI4PS>

<2013> <https://ux.nu/rxBvF>

活動場所

米子市小学校放課後児童クラブ、
境港市小学校放課後児童クラブ、
鳥取市小学校放課後児童クラブ、鳥取市内保育園、幼稚園、
認定こども園、鳥取県内小学校おやこ会、米子市内こども会

カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ



協働者

企業、学校、行政

協働者名

NPO法人やまみスポーツクラブ、ミライズ永伸商事株式会社、
鳥取県スポーツ課、鳥取市スポーツ課、米子市こども家庭課、
境港市教育委員会、社団法人鳥取福祉会、米子市、境港市、
鳥取市各小学校

補足(協働者・参加者の声)

いつも大人しい子がめちゃくちゃ生き生きしていました(保育園の先生)／本当に2人なんです！(小学校学年部保護者)／子どもたちの新たな一面が見れました(保育園の先生)／我が子があんなに楽しそうな姿を見たのは久しぶりです(小学校学年部保護者)／子どもたちは毎年この日を楽しみにしています(小学校放課後児童クラブ指導員)＜復活！公園遊びあるある＞ 子どもたちが選手のフルネームを知らない(ニックネームで呼び合うため)／・100対1(参加者100対スタッフ1)で公園遊びをしたスタッフがいる／街中で子どもたちに声をかけられ、保護者に疑いの眼差しを向けられる／復活！公園遊びに参加した子どもたちがスタジアムに来場して遊んでくれたお兄ちゃん(選手)を応援する

